

# The 37th Tokyo Motor Show

Passenger Cars & Motorcycles

# No.21

東京モーターショーニュース

2003年10月31日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 モーターショー統括部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目6番1号 大手町ビル

JAMA

Publisher : Tokyo Motor Show Department, Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.

Otemachi Bldg., 1-6-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0004, JAPAN

TEL 03-3211-8919 FAX 03-3211-5798 WEBSITE [www.tokyo-motorshow.com](http://www.tokyo-motorshow.com)



秋晴れ、30日(木)はモーターショー開催の中盤を迎えて落ち着きを取り戻し、若者で賑わっていた会場には中高年など幅広い層の姿が目立つようになった。場内では見せるだけでなく、直接乗って触れて楽しめる“参加型ブース”に若者たちの興味が向いているようだ。屋外での千葉県警音楽隊の演奏などは、ポカポカ陽気に誘われ相変わらず盛況。南休憩ゾーンの広いスペースには見学疲れの多くの来場者がのんびりと秋の日差しを浴びていた。

## “Zoom-Zoom”で 「走りの楽しさ」体感



世界水準の安全性と優れた環境性能をそなえた「アクセラ」

「Zoom-Zoom to the future—すべてのクルマに走りの楽しさを」をブランドメッセージとするマツダ。今回のショーでは、参考出品車をはじめ、新発売の次世代スポーツコンパクト「アクセラ」などの市販モデルを含め計24台を展示。ブースは2階建てのフロア構造で、大規模かつ立体的にアピールしている。

中央ホールのマツダブースに入ると、“Zoom-Zoom”（ズーム・ズーム）というお馴染みの軽快なソングが流れてくる。“Zoom-Zoom”とは、クルマの走行音を表す英語の子供言葉。日本語では「ブーブー」にあたる。インフォメーションカウンターをブースの中心に設けているが、その前後には「アクセラ」を展示したステージが2つに分かれる。中央通路側がブルー、その奥が赤の「アクセラ」だ。「アテンザ」「デミオ」「RX-8」の良さを結集し、次世代商品群の第4弾として新開発したばかりの戦略車だけに、説明員のプレゼンテーションも熱が入っている。



mazda

(左から) コンセプトカーの「鷺羽」「息吹」「KUSABI」

**mazda**

## 極限まで追求したスポーツカーへのこだわり

正面中央ステージには、「鷺羽」(わしゅう)、「息吹」(いぶき)、「KUSABI」(楔：くさび)の3台のコンセプトカーを横一線に展示。「鷺羽」は室内を日本建築の伝統様式を取り入れるなど、まったく新しいジャンルの6シーター・コンセプトモデル。「息吹」は「人馬一体」を極限まで突き詰めたオープンボディのライトウェイトオープンスポーツで未来の「ロードスター」をイメージしている。

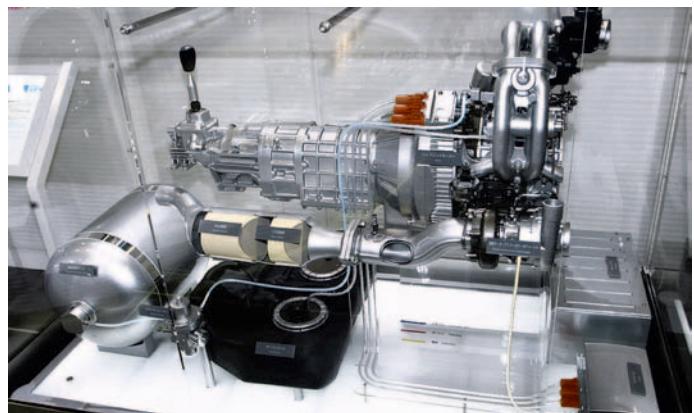
「KUSABI」は名前の通り”くさび”をイメージさせるキャビン造形で、日々の暮らしをより楽しく豊かにする2+2のクーペボディのスポーツカーだ。フォード・モーターと資本提携しているマツダは、この9月、7年ぶりに日本人の井巻久一社長が就任したが、マツダは90年代初頭には、スポーツカーだけで年産1万台に達していたこともあり、走りへのこだわりは強い。中央ステージはそのマツダらしさを十分に伝えるコーナーである。

## 水素ロータリーエンジンに熱い視線

技術展示ではマツダ独自の水素とガソリン双方の燃料でも走行可能な「RENESIS水素ロータリーエンジン」をはじめ、水素ロータリーと電気モーターを組み合わせたハイブリッドシステム、電気モーター・アシスト式ターボチャージャーなど、環境と走りの性能の両立が貫かれている。ここでもテーマである”走りの楽しさ”へのこだわりが感じられる。



「RENESIS水素ロータリーエンジン」搭載の「RX-8ハイドロジェンRE」



環境と走りの性能を重視した技術展示コーナー

## TOPICS

### 千葉県警もモーターショーを盛り上げ

— 堂本暁子知事が隊員たちを激励 —

東京モーターショー会場の幕張メッセ周辺の交通管理などを含めて緊密な体制を敷く千葉県警察本部が、今回は、交通安全啓発のための広報活動の一環として西休憩ゾーン「フェスティバルパーク」に特別コーナーを設け、ショーの盛り上げに一役買っている。また、10月24日の開会式当日のほか、30日にもフェスティバルパークのステージで音楽隊が軽やかな演奏を披露した。

特別コーナーには、白バイやパトカーも展示。白バイにまたがって得意満面でカメラにおさまる子供たちで終日にぎわい、子供用に特別に用意された警察官の制服をまとった可愛く敬礼する風景も。制服を着た子供たちには写真入りの「免許証」がその場で発行されている。

また、シートベルト着用の必要性を体験できる装置や運転適性を診断する専用車も置かれ、来場者の列ができている。



りりしい制服姿の千葉県警「ちびっ子警察官」が、ハイ、ポーズ



開会式に来賓として出席した堂本暁子知事(左)も激励に訪れ、三谷秀史県警本部長とともにシートベルトの着用を体験



関根剛二隊長が指揮する千葉県警察音楽隊。演奏に聴衆が拍手で応じる。合間に女性警察官が交通安全をアピール。「レパートリーは2000曲」という

## グループパワーを強調した共同展示

## 外国車展示ブース



# クルマづくり100年の歴史にスポーツマインドを加味 フォード

中央ホール南側の約3分の2を占めるフォードグループの共同展示は、マツダを含めて6つのブランドがグループパワーを強調している。

その中心にあるフォードのブース正面に据えられた100年のクルマづくりを記念して生産される「フォードGT」がひときわ目を引く。66年からル・マン4連覇の偉業を樹立した伝説のマシンが、往時のクラシカルなデザインを踏襲しながら現実的なロードカーとして蘇った。V8・5.4リッターのスーパーチャージャー付きエンジンをミッドシップに搭載、500馬力を発生するハイパフォーマンスカーである。

フォードブースのもう1台、WRCファン必見のマシンは「フィエスタRS Rallye」。新型「フィエスタ」をベースにワイド&ロー化し、アグレッシブな顔を持つ。



往年の栄光を引き継ぎまもなく登場する「フォードGT」

## VOLVO

# コンセプトカーで先進安全性や環境対応をアピール ボルボ

ボルボの展示ブースは、カットモデルの展示を含めてボディ剛性の高さなどを前面に安全性の確保を訴える。また、ドライバーの走行状況に合わせてコンピュータが安全性に対処する世界初のシステム(IDIS)を採用、フランクフルトモーターショーでデビューした新型「ボルボS40」などに来場者の関心が集まっている。

ブース中央に展示されたバーサティリティ・コンセプト・カー「VCC」は、ボルボが提案する未来の上級エステート。「スマートな高級車」がテーマで、直6・2.6リッター・250馬力ながらリッター当たり15.4kmという燃費性能を実現、他車から排出された大気中のHCやNOxも浄化するというエア・クリーナーシステムを搭載している。



ルーフにソーラーセルを装備、環境にも対応した「VCC」



# F1マシンを背景にラグジュアリーサルーンを強調 ジャガー

ブリティッシュレーシング・グリーンのF1マシン「R4」を壁に配したジャガーブースの主役は、アルミ・モノコックボディ構造を採用した新型「XJ」のなかでスポーティ&エレガンスを主張する「XJR」。

ラグジュアリーサルーンとして日本でも評価の高い「XJ」のスポーツモデルでもあり、フロントグリルはメッシュタイプを採用して差別化、スポーツドライビングを満喫できるようエアサスペンションやブレーキシステムなどを強化している。



新型シリーズの中でスポーツ性を盛り込んだ「XJR」



# 新モデル投入を印象づける展示 ランドローバー

オフローダージャンルで確固たる地位を占めるランドローバーは、東京モーターショーに新型「フリーランダーHSE」をはじめ6台を出展、ブースは重厚な雰囲気に包まれている。「フリーランダーHSE」はフロントグリル周りをレンジローバータイプに変更、そのイメージはモダンなものとなり、ツインポケット・ヘッドライトの採用により、機能性も高められた。



LRファミリーの顔を採用した  
新型「フリーランダーHSE」



# 革新モデル展示で新時代の幕開けを告知 アストンマーチン

淡いボディカラーの流麗なクーペ「DB9」がアストンマーチンブースの中で輝く。アルミボンネットフレームを採用、V12・6リッターエンジンは時速300kmを実現する。「DB7」の後継モデルとしてデビュー、クラフトマンシップを集約して送り出した新時代の幕開けを告げる革新的なモデルで、2+2スポーツカーのセグメントをリードする。



鍛え上げられた肉体を  
思わせる「DB9」

## 次世代の自動車社会の構築を目指して

**シンポジウム**

### ◆講師／パネリスト

石谷 久氏（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）  
大聖 泰弘氏（早稲田大学理工学部機械工学科教授）  
中西 清氏（トヨタ自動車常務役員）  
スティーブン・K. カーライル氏  
(ゼネラルモータース・アジアパシフィック副社長)  
クラウス・ボンホフ氏  
(ダイムラー・クライスラーストラテジー・市場開発統括)

### ◆パネリスト

田端 祥久氏（経済産業省製造産業局自動車課企画官）

シンポジウムでは、現在注目を集めている低公害車や燃料電池車が近い将来、どのように普及し、またその開発によってクルマ社会がどのような変貌をとげるのかを産・官・学のそれぞれの立場から方向性を探った。

講演に先立ち主催者を代表して田端氏が挨拶を行った後、石谷氏から、座長をつとめた経済産業省の「低公害車の燃料および技術の

方向性に関する検討会」の内容などを報告。続いて大聖氏が「自動車技術と環境・エネルギー問題の解決」をテーマに講演。石谷氏は、CNGなどのクリーン燃料の普及促進の有効性を強調。大聖氏は「環境面でディーゼル対策がポイントになる」と述べた。



石谷 久氏

次いで、3社の燃料電池車などの開発の現状と今後の戦略を個別に紹介した後、パネルディスカッションが行なわれた。中西氏は「トヨタは当面ハイブリッドが主流」と語ったのに対し、カーライル氏が「GMは他社に先駆け2010年頃までガソリン車と競合できるレベルに引き上げる」と主張。地球環境保護、長期的なエネルギー政策の観点から、パネリスト全員が「燃料電池車」の開発普及は不可欠としながらも、コスト面や触媒技術など課題も多く、最後に進行役の石谷氏が「問題解決にはグローバルの視点で競争と協調が必要」と語った。

## 事故死半減を目指して

**シンポジウム**

### ◆基調講演

**【交通事故死者数を大幅に削減する外傷システム】**  
益子 邦洋氏(日本医科大学付属千葉北総病院救命救急センター)

### ◆講演

**【運転中のミスは無くならない！】**  
吉田 伸一氏(交通事故総合分析センター)  
**【注意と不注意は紙一重】**  
垣本 由紀子氏(実践女子大学生活科学部)  
**【お母さんドライバーに期待するチャイルドシートの正しい装着】**  
岩貞るみこ氏(モータージャーナリスト)  
**【「速い」から「上手い」の時代へ】**  
柏 秀樹氏(モータージャーナリスト)

### ◆総司会 近森 順氏(将来の交通・安全委員会委員長)

それぞれの専門分野から提言・報告が行われた。基調講演で益子氏は「事故後、1時間以内の対応を実現するためドクターへリを含め外傷センターの整備が急務」と提言。続いて吉田氏は「事故死半減には被害の最も多い高齢歩行者対策が必要」と主張した。



益子 邦洋氏

また垣本氏は別の観点から「事故防止には、ここだけはというところに目を向ける内側からの対策と、人間を機械が救う外側からの工学的対策が必要」と説いた。そして「チャイルドシートに対してママさんドライバーの意識改革」を強く求めたのが岩貞氏。最後に柏氏が2輪車の安全について「技術の向上に加えて命の重さを知ること」と締め括った。

**TOPICS**

### キャンペーン嬢との記念写真をメールで送信

#### スポンサーシップ・プログラム マイクロソフト

キャンペーン嬢と一緒に撮った写真をメールで送ってくれるとあって、人気を集めているブースが中央モールにある。スポンサーシップ・プログラムの参加企業であるマイクロソフトだ。情報通信分野では余りにも著名な企業だが、今回の出展は車載情報端末用OS「Windows Automotive」の告知が目的。オートモーティブ導入企業名をレイアウトして表示するなど積極的。写真撮影のほかWindows転写シールのプレゼントも。



### 今日のイベント(予定)

- ★ **シンポジウム**  
13:30～15:00 交通安全～世界一安全な国を目指して～  
(国際会議場2F・国際会議室)  
14:00～15:30 メカ・電気・水素で走る車の技術  
(国際会議場2F・201号室)
- ★ **Bay FM**  
10:25～11:00  
11:15～11:50 フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)  
12:25～12:50
- ★ **フィエスタ・マリスコス**  
13:00～13:30  
15:00～15:30 フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)  
17:30～18:00
- ★ **トライアル2輪デモ**  
13:45～14:45 フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)  
15:45～16:45
- ★ **交通安全CMコンテスト表彰式**  
16:45～17:15 フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)
- ★ **クリーンエネルギー車同乗試乗会**  
10:30～16:30 環境体験ランド(幕張海浜公園)

10月30日の入場者数 **85,300人**

入場者数合計 **647,000人**

良いクルマを開発しても、消費者の興味をひかなければ売れません。

価値観が多様化する今こそ、オンデマンド印刷で個に最適化した情報提供を。  
DocuPlaza(ドキュプラザ) <http://www.docu-plaza.com/>

**Color DocuTech 60**

機材協力：富士ゼロックス株式会社

用紙協力：富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社

このニュースは「Color DocuTech 60」で、

再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。

**eCOAT105**

THE DOCUMENT COMPANY

**FUJI XEROX**